

## 嵯峨鳥居本 歴史的な通り

嵯峨鳥居本の風光明媚な町は、愛宕神社に至る古い参道に沿って、京都西部の奥嵯峨地域にあります。渡月橋や天龍寺、嵯峨野竹林などの嵐山の人気スポットから約 30 分歩くと、愛宕山の麓へたどり着きます。この道沿いには、いくつかの博物館や史跡があり、また、この辺りで葬られた人々の約 8000 の石仏・石塔を安置するあだしの念仏寺や、1200 体の羅漢像で有名な愛宕念仏寺などのお寺もあります。

嵯峨鳥居本のメインストリートには、よく手入れされた 19 世紀から 20 世紀初頭の建造物が多く存在するため、1979 年に、京都の 4 か所の伝統的建造物群保存地区の 1 つとして国の選定を受けました。格子窓、漆喰壁、そして瓦葺屋根または茅葺屋根のある伝統的な町家と農家が両方あることが、この地区の特徴です。多くの人で賑わう嵐山地区に近いにもかかわらず、嵯峨鳥居本は何世紀にもわたって伝統的な雰囲気を持続し、山々や野原、畑に囲まれ、その魅力を高めています。

16 世紀末には、農林業や漁業の集落がすでにここに存在していましたが、愛宕神社への参拝者が増えるにつれ、その旅行者のニーズに応じた門前町へと発展しました。鳥居本は「鳥居の足元」を意味し、その鳥居とは、町の主要な通りの端にある大きな朱色の門、つまり愛宕神社の一之鳥居のことです。19 世紀後半にこの町は、商人や農家の家が並び、また巡礼者のためのお店や茶屋も軒を連ねる、栄えた町になりました。

現代では、依然として個人の住宅として機能している建造物もあります。その他、カフェ、茶屋、骨董品店、または土産物専門店で転用されている建造物もあるので、町並みや周辺の史跡の散策を様々な楽しめます。保存状態の良い町家の 1 軒を復元整備してできたのが京都市嵯峨鳥居本町並み保存館ですが、そこで来館者は、この地区とその歴史を学ぶことができます。

## 京都市嵯峨鳥居本町並み保存館

嵯峨鳥居本町並み保存館は、元々は明治時代（1868～1912）初頭に建てられた町家でした。この建造物は、伝統的な町並みを紹介し、保存するため、1993 年に博物館として改修されました。150 年前のこの地区での生活が垣間見える、明治期の建築物の特に保存状態の良い例として、この建造物だけでも訪れる価値があります。その外観は、1 階の細かい格子、2 階の白い漆喰壁と土塗りの“虫かごのような”窓（虫籠窓）、瓦葺屋根の大きな煙出しを特徴としています。広い正面玄関を除けば、この建造物の様式は京都の伝統的な町家にとってもよく似ています。内部には、大きなかまど、屋内井戸、そして庭に面してつながった部屋があります。

現在それらの部屋には、嵯峨鳥居本伝統的建造物群保存地区をはじめ、その他の京都にある国の選定を受けた伝統的建造物群の、様々な写真、歴史地図、建築図面が展示されています。大きなジオラマでは、歴史的な町並み、近隣の神社や寺院、この地区を走っていた列車の線路など、

1930年に存在した周辺地区の全景を見ることができます。また、毎年夏の8月16日に5つの様々な形のかがり火が焚かれる京都の有名な「五山の送り火」の一つとして、小さな炎を並べて大きな鳥居形を描く曼荼羅山も、そのジオラマの中に描かれています。

保存館では主に日本語で情報が書かれていますが、豊富な展示物を見ることにより、来館者はこの地区の歴史や雰囲気を感じるような体験ができます。